

Tea Times

◆ お茶の水女子大学広報誌【ティータイムズ】

Dec. 2005 14

TOPICS 特集1 徽音祭 …… 2

REPORT 本学舞踊教育学コース「文部科学大臣賞」受賞! …… 6
米国ワシントン大学との連携講義の試み …… 6
ノーベル賞受賞者会議に参加して …… 7
2台のペヒシュタインを使ったコンサート …… 7
学習支援の学生に学長表彰 …… 7

TOPICS 特集2 130周年記念事業 …… 8

NEWS 文部科学省平成17年度公募「魅力ある大学院教育」イニシアティブ2件採択 …… 10
文部科学省平成17年度公募「大学・大学院における教員養成推進プログラム」採択 …… 10
徽音堂空調設備完成披露式典を開催 …… 11
落葉リサイクルプロジェクトへお誘い …… 11

INFORMATION MEDIA CLIP/CALENDAR/編集後記 …… 12



国立大学法人 お茶の水女子大学



なりたいわたしに！ お茶大プリティ☆プリンセス

今年のテーマ「茶レンジャー」を受け、日頃から「変わりたい！！」という願望を持っていたお茶大生3人が美容専門学校生によって大変身。服装・ヘアメイクだけでなく、ネイルやボディー・ペインティングなど細かいところまでトータル・プロデュースされたお茶大生を見て、観客のみなさんはそのあまりの変身ぶりにびっくりしているようでした。1番変身したのは誰か、投票していただいたところ、理学部2年生の藤音喜子さんが選ばれました。変身後の彼女の願いは、サークルの友人に「藤音さん」でなく「よしこちゃん」と呼ばれること。その友人にも「綺麗になった」と言われ、とても満足気でした。3人とも素敵な魔法にかかったようです。

(広報部局長 大野 森香)



笑顔で感想を述べる変身後の藤音さん(中央)



夢への挑戦—いかに挑戦するか—

夢を見ていられるのは大学生まで、そんなシビアな世の中です。でも夢を叶えたい！！いつまでも夢を追いつけたっていいじゃない！！そう、今年の徽音祭のテーマは「茶レンジャー」。ということで、夢に向かって突っ走る若きチャレンジャー、20歳の漫画家・普津澤画乃新さん、21歳の社長・瀧口浩平さん、21歳の路上パフォーマー・小川まゆさんの3名によるパネルディスカッション。夢は見ているだけでは叶うわけがない！それに向かって自分から行動することの大切さを忘れてはいけません。当たり前のことですが、同世代のチャレンジャーに言われることによって改めて気づかされました。さあ、皆さんも常に自分の夢に向かって突っ走る“チャレンジャー”であってください。(広報部局 山尾 香織)



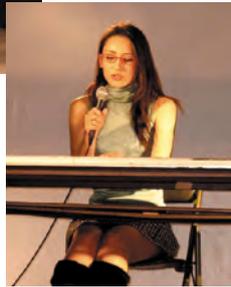
私たちと同世代の漫画家・普津澤さん(右)と司会の本学教員・菅聡子さん(人間文化研究科)

受験生相談室&キャンパスツアー

例年がない盛況ぶりに少々スタッフも戸惑ってしまった受験生相談室。相談に来てくれた方々の質問に親身になって答える相談員の姿はもちろん、なんといっても相談している方々の真剣な姿がとても印象的でした。また、連動企画となっている今年初めて行われたキャンパスツアー。これはお茶大の同窓会である桜蔭会主催の企画です。予想以上に参加者が多く、構内をぞろぞろと歩く様子は学園祭のひとつの名物となっていたといっても過言ではありません。このような企画によってお茶大の実態を知っていただき、受験生がこれからもっと増えてくれればともうれしいです。(山尾)



多くの受験生が集まったキャンパスツアー



自己PRの模様



二代目OCHA☆1の堀内さん

水コン OCHA☆1決定戦～

昨年度に引き続き行われたこのイベント。今年の水コンは大変盛り上がりました！各学部から6人の候補者に出場していただき、知識問題・カキ氷早食い・自己PRをもらい、獲得点数とお客さんの投票の合計点数で二代目OCHA☆1（お茶・ワン）を決定しました。見事二代目OCHA☆1に選ばれたのは、ロミオとジュリエットを一人二役で演じ、観客の皆様を釘付けにしていた理学部生物学科の堀内さん！他の出場者の方々も、ニュースキャスターやキーボード、日本舞踊、歌、空手という多彩な自己PRを披露してくださいました。素敵なお茶大生の方々に触れることができ、本当に楽しむことができました。(イベント部局長 金子 愛)

溢れ出す人工物—ART TOWER

写真・陶芸・絵画・アクセサリー・映像・文芸・ネイルアート—あらゆる分野のARTが、文教育学部1号館に集結。スタンブラリー形式で、様々なARTを観て回るというもの。テーマを受けて、芸術作品の創造に日夜チャレンジしている学外の方にも場を提供しました。手相占いを実施した4Qや、東京藝術大学など、多くの学外の方が参加してくれました。女性客に好評だったのは昨年も人気だった東京ビューティーアート専門学校によるネイルアート。そんなARTでいっぱいART TOWER中、来場者のアンケートで最も好評だったのは、お茶大写真部！展示・鑑賞部門賞を受賞。金一封が贈られました。来年も更なる参加団体の増加が期待されます。(大野)



展示されていた作品



写真を鑑賞する来場者



これもART

楽しい×おいしい=模擬店

「あれ、もう終わり？」それが今の率直な感想です。去年の徽音祭、当時1年生のスタッフだった私には大盛況で大成功のキラキラしたものに見えました。…が、月日は経ち総務部局長になった時、私は思ったのです。「お茶大生にもっと参加してもらおうです。模擬店・参加団体を増やすのです。参加団体が多ければ徽音祭は盛り上がる！」しかし、私の力だけではどうしようもありません。むむむ……。前途に不安を抱いた私ですが、蓋を開けてみれば、去年よりも増えた参加団体！模擬店だけでも30以上、展示や発表も加えると80近くの団体が参加しました。素晴らしい！素晴らしいお茶大生！素晴らしい徽音祭をありがとう。

(総務部局長 坂本 さつき)



ファッションショー&オペラ

毎年好評！！ファッションショー&オペラ。この2つは毎年行われている、徽音祭目玉イベントです。オペラは音楽表現コース、ファッションショーは生活文化化学講座のそれぞれの学生が主体となっています。今年のおペラの演目は「ウィンザーの陽気な女房たち」という作品で、徽音堂いっぱいの観客の方々にとっても楽しんでいただけたようです。ファッションショーは、自分のデザインした洋服を着てステージを歩くキラキラした学生の

姿にとっても圧倒されました。女の子として憧れてしまいます。

学生が主体となっているこのようなイベントは、とても学園祭らしく、みんな真剣に取り組んでいるので絶対に満足していただけだと思います。来年もお楽しみに。

(山尾)



こちらも好評だった舞踊教育学コース1年によるダンス

Presented by 56th Kiin Festival Committee

今年が発足1年目だった広報部局。学内・学外に徽音祭を宣伝すべく、手探りでしたが1年走ってきました。迅速さと正確さが求められる中、ターゲット・セグメントの重要性や肖像権・著作権・プライバシーの権利についても勉強させられ、吸収できるものが沢山ありました。徽音祭が終了した今、来場者数・公式HPアクセス数と、数字でリアルに結果が出てきました。

発表します！来場者数1万5千人（昨年度1万2千人）、11月15日現在公式HPアクセス数4万5千アクセス（昨年度1万7千アクセス）です。みんなで創った徽音祭は大成功だったとほくそえんでいる部局長でした。現在アフターレポートが公式HPで公開中です。是非ご覧下さい。（大野）
<http://kifc2005.hp.infoseek.co.jp/>

徽音祭実行委員会の全員集合写真



本学舞踊教育学コース「文部科学大臣賞」受賞！ 片岡 康子 文教育学部

この度、第18回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)の受賞作品《人形あそび—愛それとも虐待—》は、児童虐待という凄惨な人間関係^{いじめ}を「人形あそび」の場に置き換えて創作しました。今、大きな社会問題となっている重いテーマだけに、形をなぞるだけの表現ではなく、一人一人が生身の人間として、人間の真髄に触れる表現に達するまで、文字通り悪戦苦闘。5月から7月末までの3か月間、平日は授業終了後より5時間、土日10時間強の毎日の練習で作品を深めていきました。結果として、大会関係者や観客の方々からの「これ以上ない傑作」「いたたまれなくて涙が止まらなかった」という言葉とともに、「日本一！」の文部科学大臣賞という最高の栄誉を得ることができました。さらに、郷通子学長からねぎらいのお言葉を添えて頂いた学長表彰は達成の喜びを増幅してくれました。

この場をかりまして、応援して下さった皆さまに、心から感謝を申し上げます。



米国ワシントン大学との連携講義の試み 三浦 徹・熊谷 圭知 文教育学部

すべて英語でやる専門の授業。いったい何人が受講するだろうか？そんな不安を吹き飛ばすように事前登録者は25名。二人の講師（米国ワシントン大学国際学部、S・ハンソン、W・ラッチュ両先生）から指示のあった400頁の予習テキストに恐れを抱いたのか、9月12日、集中講義初日に集まったのは15名。いざ授

業が始まるや、明快な論理構成でジェスチャーやジョークをまじえた講義に、私たちも学生も惹きつけられていきました。それもそのはず、二人はワシントン大でBest Lecture賞を受賞しているということです。2日目にはどんどん質問がでるようになり、最終日は二人一組で、図表やチャートを使い、英語で堂々たる発表。講師からの厳しいツッコミにはさすがに立ち往生する場面もありましたが、お別れの昼食会の頃にはすっかりうち解けました。特別教育研究予算「国際協力人材育成」による新たな試みで、全員が来年以降も続けてほしいと回答しました。授業はDVDに録画し、詳しい報告はグローバル文化学環のHPに掲載されています。



中央左 S・ハンソン先生、右 W・ラッチュ先生

グローバル文化学環HP

<http://www.li.ocha.ac.jp/global/index.html>

ノーベル賞受賞者会議に参加して

西岡 紗良 人間文化研究科 博士後期課程

私は6月26日から7月1日、毎年ドイツで開催の、ノーベル賞受賞者と世界の若手研究者との交流を目的とした、ノーベル賞受賞者会議（リンダウ会議）に、文部科学省科学技術・学術政策局国際交流官の派遣として参加しました。今年は55回目を記念して、物理学、化学、医学・生理学の各分野の受賞者約50名および世界中の若手研究者約500名の合同会議となり、日本からは15名の若手研究者が派遣されました。

会議は受賞者による講演、受賞者同士のラウンド・テーブルディスカッション、小規模なセッションの他、ダンスパーティーやボートトリップなども盛り込まれ、様々な形でノーベル賞受賞者と触れ合うことができました。講演は異分野の研究者にも比較的理解し易く配慮され、またディスカッションでは環境や教育についても討議され、非常に興味深い内容でした。日本からの派遣者には小柴昌俊博士夫妻との夕食会が開かれ、

直接お話を伺うことができました。

このような得難いチャンスをいただいたことに心より感謝するとともに、来年度以降も本学から、若手研究者が派遣されることを願っております。



小柴博士夫妻との夕食会 西岡さんは小柴夫人の背後

2台のベヒシュタインを使ったコンサート

10月22日、徽音堂において、80年前附属高等女学校と小学校に納入され、先頃修復されたベヒシュタイン製グランドピアノ2台を用いたコンサートが、附属校PTA主催で開催されました。（文責：編集委員会）



学習支援の学生に学長表彰

9月30日に学長表彰が行われました。文教育学部の吉田和葉さんと松永一飛さんには、交通事故に遭って通学が困難になった学生を1年に渡って学習支援したことに対し、賞状が贈られました

（文責：編集委員会）



松永 一飛さん



吉田 和葉さん

TOPICS

特集2

130周年記念事業

お茶の水女子大学創立130周年記念事業から
3つのシンポジウムをご紹介します。

シンポジウム1

お茶の水女子大学生活科学部のゆくえ—家政学から生活科学へ

小谷 眞男 生活科学部

10月29日、生活科学部・生活社会科学研究会共催によるシンポジウムが開かれました。上村協子氏（東京家政学院大学助教授、本学卒業生）は、お茶大の原点、東京女子師範学校創設から戦後の家政学部設立までの経緯を、松平友子という家政学者に焦点をあてながら綿密な史料検証によって再構成しました。本田和子氏（本学前学長）は、当時の家政学部長として生活科学部への改組事情を振り返り、「全地球的連帯」を目指す研究の開拓など、生活科学の意義と課題を整理しました。中島利誠氏（本学名誉教授）は、生活科学を「物質と心が交わる領域」と位置付け、「着心地」など様々な研究テーマの可能性を示しました。

以上の報告を受けてフロアからも発言が相次ぎ、本学の牧野カツコ氏の司会のもとで生活科学の現代的意義をめぐる活発な意見交換が行われました。当日の参加者は75名。HPを見て来たという高校生が「生活科学という学問の原点や位置付けがわかった」という感想を寄せたことも特筆しておきたいと思います。



フロアから質問する湯沢氏（本学名誉教授）とシンポジストの上村氏、中島氏、本田氏

シンポジウム2

女子高等教育の歴史と課題—お茶大・奈良女の比較と社会的位置づけ

米田 俊彦 文教育学部

科学研究費補助金による研究の一環として、本学の国立女子大学としての歩みを奈良女子大学と比較しながら捉えるという趣旨で、11月12日、20名ほどの参加者を得てシンポジウムを開催しました。奈良女子大学の小路田泰直氏と筆者が報告を行い、早稲田大学の湯川次義氏と本学の小風秀雅氏にコメントをいただきました。本学の館かおる氏の司会で、フロアからも多くの意見が出されました。

小路田氏によれば、創立の時期との関係や、高等女学校教員の養成に傾斜したことで、奈良女高師は主婦（良妻賢母）養成の性格をもっているとのことでした。制度的には同じにできているはずの東京女高師の歴史を見ても、実際にお茶大に勤務していても、本学にそういう性格が埋め込まれていると感じ

たことはありません。遠慮なく高度な学問をやってきたのではないのでしょうか。本学の社会的な性格や位置づけを知るひとつの手がかりを得たことが筆者にとって収穫でした。



左から小風氏、筆者、小路田氏、湯川氏と司会の館氏

11月19日、徽音堂に約250名の参加者が集い、「飛天の夢—その思想と科学」が開催されました。本企画は、石黒節子氏（人間文化研究科:舞踊）のプロデュースにより、上昇下降を繰り返す航空機内で発生する微小重力状態の中で、「飛天の舞」（天女が空中を飛行する）を行うという壮大な実験であり、これが実現するまでの記録映像と、舞踊実演が展開されました。微小重力環境を利用した実験が科学技術研究である中、本企画は、文化芸術分野であることから、世界的に注目を集め、本年12月のピエール・カルダン劇場（パリ）における世界初公開に先がけて、本学130周年事業として急遽実現したものです。

引き続き、文系・理系、異なる立場から、頼住光子氏（文教育学部）、黒谷明美氏（宇宙航空研究機構宇宙科学研究本部:本学卒）、古賀一男氏（名古屋大学環境医学研究所）による講演の後、3人の講師に石黒氏を加え、さらに航空機実験体験者の学

生も交え、刺激的なシンポジウムが繰り広げられました。知的興奮のさめやらぬ、豊かな秋のひと時でした。



事業内容

お茶の水女子大学創立130周年記念 その他の事業紹介

本学では創立130周年を記念し、「伝統と未来をつなぐお茶の水女子大学」というテーマで、10月から12月にかけて、数多くの事業を展開しました。大学・学部等の主催では、4つの記念シンポジウムや映画「博士の愛した数式」上映会が行われました。さらに附属学校園と大学が一体になって、記念音楽会やキャンパス植物園事業を行いました。また、文京区・文京区教育委員会との共催で、記念科学月間を催し、科学実験教室や講演会などを開きました。

11月22日には多くのご来賓ご出席のもと、創立130周年記念式典が開催されました。式典に引き続き、神田道子氏（国立女性教育会館理事長）へ名誉博士称号が授与され、神田氏による特別講演「男女共同参画社会の形成と女性教育」がありました。

3つの記念シンポジウムは本号でご紹介しましたが、神田道子氏の名誉博士称号授与式等、その他の事業については次号で詳しくご報告します。

（文責：編集委員会）



文部科学省平成17年度公募「魅力ある大学院教育」イニシアティブ2件採択

人社系「〈対話と深化〉の次世代女性リーダーの育成」

羽入 佐和子 副学長

今の時代はどの学問分野でも何らかの形で社会的要請を意識せざるを得ません。しかし、大学院教育ではまず専門性の「深化」が必須の要件になっています。

お茶の水女子大学大学院は、開設以来学際性を理念とし、既存の学問的枠を超えて問題を探究する高度な専門的能力の育成に努めてきました。今回採択された教育プログラムでは、とくに現在の国際的文化的状況を鑑みて、国と国、文化と文化の「対話」

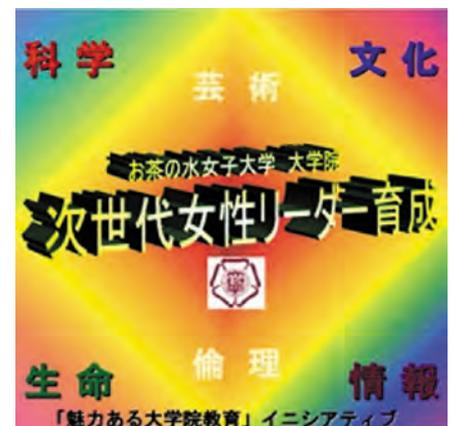
を可能にする大学院教育を提案しました。具体的には、副専攻制度（「文化マネージメント研究」と「男女共同参画リソース研究」）、副指導体制の強化、国際的なジョイント教育、そして、博士論文完成までのプロセスの明確化を掲げています。この〈対話と深化〉によって社会に資する優れたリーダーを次世代に向けて育成することがこのプログラムの目標です。

理工農系「生命情報学を使いこなせる女性人材の育成」

松浦 悦子 理学部

この度の「生命情報学を使いこなせる女性人材の育成」のプログラムは、幅広い分野で生命情報学を使いこなせる能力をもつ専門家を養成することを目指しているものです。これまで本学にはなかった生命情報学の履修プログラムを博士後期課程に専攻を越えて導入し、既存の生命科学分野ばかりでなく、数学、物理学、化学、情報科学などの分野でも、それぞれの専門を深めな

から、このプログラムで基礎から応用までの生命情報学を学ぶことができるようにと考えられました。研究現場でのインターンシップや海外での学会発表などの支援も行います。生命情報学は、産業界で最も人材が不足している分野の一つでもあります。本プログラムを履修することによって、将来、さまざまな分野で活躍するチャンスが広がることを期待しています。



http://www.ocha.ac.jp/information/20051026_2.html

文部科学省平成17年度公募「大学・大学院における教員養成推進プログラム」採択 「科学コミュニケーション能力を持つ教員養成」

千葉 和義 サイエンス&エデュケーションセンター

高齢化や温暖化など、現代の困難な問題は、科学技術の進歩によって解決できると期待されています。その一方で理科離れなど、科学に対する無関心や不信感が増大しています。この状況に対処するためには、科学情報を社会に伝え、人々と科学者間のコミュニケーションを実現できる人材、すなわち科学コミュニケーターが必要とされていま

す。そこで本学では、「教員養成推進プログラム」公募に対して「科学コミュニケーション能力を持つ教員養成」を提案し採択されました。本プログラムは、大学院博士前期課程に開設され、次の3つの力を養います。1) **深める力**：先端科学の面白さや重要性を感じ取り、その未来を想像

できる能力。2) **伝える力**：幅広い分野について、分りやすく感動的に解説できる能力。3) **つなげる力**：一般社会人や子どもたちと、科学者との双方向的コミュニケーションを実現できる能力。教育や広報関連に興味のある方は、ぜひ受講して下さい。

徽音堂空調設備完成披露式典を開催

本学では9月13日、^{きいんどう}徽音堂(大学講堂)の空調設備完成披露式典を開催しました。創立130周年記念事業の一環として、徽音堂の保存・改修のための寄付を呼びかけ、今年8月の時点で、6千名を超える方から合計で1億円以上が寄せられました。そこで改修第一期として、空調設備が設置されたものです。

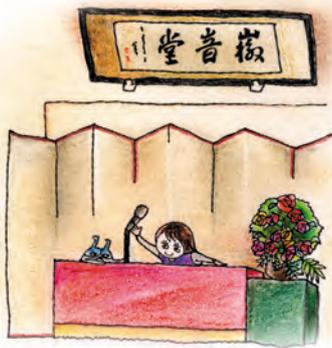
東京女子高等師範学校時代(明治41年～昭和27年)の卒業生を式典にご招待したとこ

ろ、約150名もの方々が参加されました。当日は30度を越す残暑でしたが、徽音堂内は完成したばかりの空調により快適でした。式典では、郷学長の挨拶の後、寄附の発起人である本田和子前学長、阿部知子衆議院議員、生駒俊明経営協議会委員、江澤雄一経営協議会委員の挨拶がありました。続いて、寄附に多大な協力があつた方に、名誉学友記や感謝状が贈呈されました。寄附者の方々の

氏名を刻んだ銘板も講堂前に設置され、郷学長、本田前学長、阿部議員、斎藤與志子桜蔭会長の手で除幕されました。式典の後は、祝賀会が開催されました。

募金の目標金額は5億円で、引き続き内装などの修復保全を予定しています。一段のご支援をお願いいたします。問い合わせは総務課03-5978-5106。

(文責:編集委員会)



イラスト/緒方 泉

落葉リサイクルプロジェクトへお誘い

赤石 布美子 人間文化研究科 博士前期課程

これまで学内では、落葉は可燃ゴミとして処理され、花壇は手の入っていない所も見られました。

今秋、構内で集まった落葉を堆積して腐葉土化する取り組みを、学生ボランティアで始めました。文教育学部2号館裏で、現在は昼休みに落葉踏み、水撒き作業を行っています。春にはこの腐葉土を構内の花壇に入れ、植物を育てる予定です。

ただ今、作業に参加して下さるボランティアを募集しています。大学事務、教員、清掃業者の方々の助けも借り、始まったばかりですが、植物資源の循環に貢献したいです。プロジェクトにご賛同いただける方も増えることを願っています。

詳しい予定などは学生課まで。
(E-mail:gakusei@cc.ocha.ac.jp)



落葉踏み作業

INFORMATION

MEDIA CLIP

クリップ情報 平成17年6月以降本学に関するおもな新聞記事一覧

- ★まなび再考・耳塚寛明教授（日経新聞6月6日朝刊連載）
- ★わたしとおとうさん・藤原正彦教授（毎日新聞6月8日朝刊）
- ★白糸ロックビルの不肖無精・林正男教授（読売新聞6月11日夕刊連載）
- ★手間をかける・千葉和義教授（毎日新聞6月15日朝刊）
- ★幼児の園：大学に保育施設続々・いずみナーサリー（読売新聞6月22日朝刊）
- ★学びの時評：「型」覚えずして上達なし・藤原正彦教授（読売新聞6月27日朝刊）
- ★マータイ通信・ワンガリ・マータイ名誉博士（毎日新聞7月4日不定期連載）
- ★読売・お茶大女性アカデミア21（読売新聞7月6日朝刊）
- ★正論：国家意識の欠如こそ国衰える根源・藤原正彦教授（産経新聞8月20日朝刊）
- ★「心」失わぬために：こころを育む総合フォーラム・本田和子前学長（読売新聞8月26日朝刊）
- ★援助の哲学：慈善と違う、人との連携・緒方貞子名誉博士（日経新聞8月26日朝刊）
- ★正論：「原爆の日」も甲子園球児たちの黙祷を・森隆夫名誉教授（産経新聞8月26日朝刊）
- ★生活ワーキングウーマン：女子高生対象セミナー・古川はづき教授（日経新聞8月30日）
- ★あの人に迫る：科学で読み解く般若心経の世界・柳澤桂子名誉博士（東京新聞9月9日朝刊）
- ★大人に「リテラシー」を：文科省が目ざづくり・室伏きみ子教授（東京新聞9月14日朝刊）
- ★生活わいど：応援します理系の女性、発掘します科学者の卵・古川はづき教授（読売新聞9月14日朝刊）
- ★改革本番：幅広い職業人育成を重視・郷通子学長（日刊工業新聞9月16日朝刊）
- ★保育に最新知識を・大戸美也子教授、榊原洋一教授（毎日新聞9月28日朝刊）
- ★「魅力ある大学院教育」イニシアティブに本学のプログラムが2件採択（朝日新聞、毎日新聞、日経新聞、東京新聞、日刊工業新聞、いずれも10月26日朝刊）
- ★親子が魚の生態学が・湾岸生物教育研究センター（房日新聞11月3日朝刊）

- ★人・模・様：災害時のジェンダー解消を・神田道子名誉博士（毎日新聞11月24日朝刊）
- ★「中1ギャップ」どんな子に起きるのか？：教員との関係悪化明確に・酒井朗教授（日本教育新聞11月28日）
- ★新・赤ちゃん学国際シンポジウム・榊原洋一教授（産経新聞11月28～29日、12月1日朝刊）
- ★正論：憲法と世論で伝統を論ずる無理・藤原正彦教授（産経新聞12月7日朝刊）

CALENDAR

大学の暦 平成17年12月～平成18年3月

12月24日(土)	冬期休業開始
1月7日(土)	冬期休業終了
1月21日(土)～22日(日)	大学入試センター試験
2月2日(木)～3日(金)	大学院博士前期課程入学試験
2月25日(土)～26日(日)	学部入学試験前期日程 私費外国人留学生(学部留学生)特別選抜
3月2日(木)～4日(土)	大学院博士後期課程入学試験
3月12日(日)	学部入学試験後期日程
3月23日(木)	卒業式、大学院学位記授与式

【表紙の人】 廣池 英子さん（ジャズ・ピアニスト、本学卒業生）

微音祭でジャズ・カルテット・ライブコンサートを開催した廣池氏は、本学理学部物理学科卒業後、東京工業大学で博士号を取得。「分子の電子構造理論」をテーマに研究を続け、東北大学大学院で非常勤講師を務めた後、63歳でジャズ・ピアニストとしてデビューし、3枚のアルバムをリリース。フォノン（空気の粗密波である音を量子化した粒子）が空間を乱舞する様をイメージした「サイケデリック・フォノン・ダンス」など、物理学的発想から生まれたオリジナル曲で話題を呼ぶ、時のひと。 撮影／石黒 美穂子

▶編集後記

14号は微音祭と創立130周年事業の2本の特集号です。前者には学生の参加を積極的に求めました。イラストを含め、学生の手による盛りだくさんの写真など、これまでにない賑わいが出せたと思います。また前号の編集後記で、各界で活躍するユニークな卒業生の情報提供をおねがいしましたが、表紙の廣池英子氏には拍手喝さいです。次号に向けて更なる情報提供をお願いします。130周年から、さらに躍進する大学の姿をこれからもお届けします。

次号は来年3月発行を予定しております。【編集長】



■お茶の水女子大学広報誌 Tea Times 14号

平成17年12月19日発行

■編集発行

国立大学法人 お茶の水女子大学 社会連携・広報推進室

■編集委員会

編集長 篠塚 英子 社会連携・広報推進室長

編集委員 柴坂 寿子 西村 光範 河野 隆 高橋 苗々子

学生協力者 緒方 泉 文教育学部3年

大野 森香 第56回微音祭実行委員会 広報部局長

発行責任者 羽入 佐和子 学術・情報機構長

■問い合わせ先

国立大学法人 お茶の水女子大学 企画広報課

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

TEL 03-5978-5105 FAX 03-5978-5890

E-mail info@cc.ocha.ac.jp URL http://www.ocha.ac.jp

Tea Timesは本学ホームページでいつでもお読みになれます。

制作／株式会社プリモパッソ